絆 Doctor's File 会員インタビュー Vol.25

訪問歯科に必要なのは患者さんの心に寄り添うコミュニケーション

つくば市　飯村医院　訪問歯科　飯村　尚仁先生

お父様が開設する内科小児科医院内に９年前に訪問歯科を併設し、以来、訪問歯科専門の診療スタイルを貫いている飯村尚仁先生を訪ね、話を伺った（聞き手は高城勇揮・歯科広報部長）。

― 訪問歯科専門でやっていこうと決意されたきっかけは？

北里大学東病院歯科口腔外科に勤務していた時に、外来診療では有病者の歯科治療を行ってきました。また、入院患者さんのベッドサイドでの歯科治療と口腔ケアを、東病院のほか、隣接する北里大学病院でも携わってきました。しかし、歯科口腔外科の外来が閉鎖され、理想としていた診療ができなくなってしまいました。「学んだ知識や技術を生かして、もっと現場に赴く診療を行いたい」。そう思って実家に戻り、訪問診療を立ち上げました。スタッフの歯科衛生士とともに、１日に 10 件前後訪問しています。患者さんが希望する曜日や時間帯に応じて日々診療を行っています。

― 訪問での歯科治療はどこまでできますか？また、苦労されることは？

基本的には一般歯科でできる治療は行っています。抜歯も埋伏歯でなければ行います。顎関節脱臼も非観血的整復ならできます。ポータブルユニットとエンジン、レントゲンは常に持ち歩き、外来と同じような診療ができるよう心がけています。つくば市内には最近、マンションが増えてきて駐車に困ることがあります。止める場所を聞こうにも管理人がいなかったり、患者さんも駐車場を契約していなかったり。その場合は、荷物を運ぶのが大変です。初診の時に、前もって聞いていた主訴と実際が違っていて、資材を取りに車に戻ったりと。都会で訪問診療をしている友人に愚痴をこぼすと、「そんなの当り前」と言われるのですが。

― 医科や一般歯科診療所、病院歯科との連携はどうされていますか？ また、ケアマネジャーとは？

抜歯などの侵襲的処置をおこなう場合は、医科主治医との連携を行ないます。パノラマ写真が見たい場合は、一般歯科診療所に撮影をお願いしたり、以前の写真を見せていただく場合もあります。病院歯科とは顎骨骨髄炎や顎関節脱臼で観血的整復が必要な時に連携を行ないました。

ケアマネジャーさんとの関係は、私自身も資格をもっているので、ケアマネからの視点もよく分かります。うちの法人の居宅介護支援事業所のケアプラン作成にも関わっています。毎月開催されるケアマネジャー連絡会や地域ケア会議などに参加し、地域の介護問題について意見交換しています。

― 家族は義歯を入れたいと強く希望しても、本人は認知症が進み嫌がってしまうなど、家族と本人の希望が違う場合、妥協点をどこで見出しますか？

家族には義歯がなくても栄養摂取できる方法など代替策を伝え、できるだけ患者さん本人の意向を重視するように努めています。無理して義歯を作っても、本人が使わなければ意味がないので。一緒に考え、根気強く説明していくことが、家族の理解を得られるポイントではないでしょうか。

― これから訪問診療を始めてみようと思っている会員のために、参考になるアドバイスをお願いします。

問診票から、その方の持病が歯科治療に及ぼす影響を必ず確認しています。また、ご本人と意思疎通が難しい場合は、キーパーソンとのコミュニケーションを密にするように心掛けています。

さらに、患者さんや家族が困った時にはいつでも相談に乗り、診察することが、患者さんとの信頼関係を築く第一歩になると思います。休診日、昼休み等の時間外であっても、できるだけ対応することが必要だと考えています。

（写真）訪問診療にでかける飯村先生。台車ごと搬入できるよう車を改造し、器具や材料は種類ごとに道具箱に分けて積み込む。

2004年昭和大学歯学部卒業、北里大学東病院歯科口腔外科入局。08年医療法人健康尚仁会飯村医院内に訪問歯科を開設。11年介護支援専門員取得。

― 心に残る患者さんのエピソードがありましたらお聞かせください。

１年近くターミナルの患者さんを訪問し口腔ケアをしていたことがありました。患者さんが亡くなった後、ご家族からお手紙をいただきました。そこには患者さんが毎週、私たちとの会話を楽しみにしていたことが書かれていました。私たちはとりとめのない話をしたとしか思っていませんでしたが、在宅の患者さんにとってはご家族以外との会話がとても新鮮だったようです。在宅医療は技術はもちろんですが、患者さんの心に寄り添うコミュニケーションが大切だと気づかされた出来事でした。

― 患者さんや家族に感謝されると、やっててよかったという充実感が沸いてきますよね。先生のご奮闘を期待しています。